

2022 年度 事業計画書

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

情報科学の国際研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を行うとともに、将来を担う若手研究者の育成を図るため、情報技術に関する競技会を開催する。

助成事業

2022 年度研究者交流助成として以下のとおり事業を行う。

本来、海外で開催される国際研究集会への派遣(研究者海外派遣助成)及び国際研究集会参加又は調査・共同研究目的での外国人研究者の来日(外国人研究者交流助成)について渡航費及び滞在費の一部を助成する。世界的な新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の影響により渡航に関して流動的な状況であることを踏まえ、2022 年度については、助成事業の主旨の範囲内において助成内容及び方法については以下のとおりとする。

助成内容： 海外で開催される国際会議(デジタル開催、ハイブリッド開催を含む)において、参加形態に応じて所定の渡航費または参加登録費を助成する。

助成金総額： 700,000 円

助成件数： 5～15 名程度

応募資格：

- ①日本の大学等学術研究機関又はこれと同等と認められる機関に所属する研究者であること。大学院生(在日留学生を含む)も可とする。
- ②海外で開催される情報科学に関する国際研究集会(デジタル開催、ハイブリッド開催を含む)において、研究発表を行うためであること。
- ③大学院生の場合は、指導教官の推薦があること。
- ④過去 2 年間に同一目的で当財団より助成を受けていないこと。

募集方法： 募集要項を大学等学術研究機関に郵送するほか、当財団ホームページ上に募集要項及び申請用紙を掲載して公募する。

募集締切： 2022 年 9 月末日

(募集対象会議開催期間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日。終了会議も対象とする)

申請方法： 所定の申請用紙に必要事項を記入し、当財団に提出する。

選考方法： 研究交流助成選考委員会において選考し、理事長が決定する。

なお、当該選考委員は理事会で選任する。

採否通知： 締切日の翌月末までに、申請者に採否を通知する。

交 付： 助成金は渡航費等(渡航先に応じた財団所定額)または海外登録費の実費(上限 4 万円)とし、会議開催時期を勘案して交付する。

使 途：助成金は、助成金交付規程に従い申請書記載どおりに使用する。万一途中で変更がある場合には、予め申し出て当財団の承認を求めること。参加が中止になった場合は、ただちに返却すること。

成果報告：会議終了後または助成金交付後 1 ヶ月以内に報告書を当財団に提出するものとする。

成果刊行：成果について刊行する場合には、“公益財団法人 情報科学国際交流財団 (International Information Science Foundation) の助成による”旨を明記する。

そ の 他： COVID-19 の影響により変更が必要とされる場合は、助成選考委員会の助言を受けるものとする。

2. 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の研究課題の提言を発信することを目的とした調査・分析等を行う産学の研究者グループに対する助成を行う。

ただし、事業の実施については 2018 年度以降休止している。

競技会開催事業

大学対抗国際プログラミングコンテストを開催するとともに、その関連事業を行うものとする。

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、アジア地区の大学生、大学院生及び高等専門学校生を対象とした大学対抗国際プログラミングコンテスト(ICPC)を開催し、コンピュータプログラミング技術の向上と国際性を養う。

競技会開催費総額： 13,600,000 円

実施運営方法： 理事会で ICPC 運営委員を選任する。開催実施校は ICPC 運営委員が選定し、理事長が決定する。ICPC 運営委員が実行委員長・審判長を選任し、実行委員長は大会実行委員会・審判団・ICPC セクレタリーズを組織し、事業計画に基づき実施運営を行う。ICPC 国際ルールの他に、大会ローカルルールは実行委員会、選抜ルールは ICPC 運営委員会で定める。

成果報告： 報告書を作成し、関係各署に送付する。

実施内容：

(1) 学生のコンピュータプログラミング技術の向上を目的に ACM(国際計算機学会)が 1997 年以来世界的規模で開催し、現在は ICPC Foundation(本部 Baylor University, U.S.A.)が運営を行っている国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)のアジア地区予選の一つとして ICPC2022 横浜大会を開催する。

共同開催校の選定、実行委員長及び審判長の選任については ICPC 運営委員会で行い、理事長が決定する。

① 全国の大学及び高等専門学校の情報関係学科に参加募集ポスター等を送付し、インターネットにより参加登録を受け付ける。

② インターネットを利用した国内予選を行い、本選に進出するチーム(選手 3 名コーチ 1 名)は選抜ルールに則り選抜する。

- ③本選は国内予選から選抜する 50 チームで、2 日間にわたり横浜産貿ホール(神奈川県横浜市)に於いて行う。初日は開会式・リハーサル等、2 日目はコンテスト・表彰式・閉会式・懇親会等を行う予定とする。ただし、チーム総数、海外チーム参加の有無、開催日時及び実施方法については、COVID-19 感染拡大状況を鑑み、ICPC 運営委員会において適宜対応するものとする。
- ④原則として、コロナ禍以前に行われていた現地開催の大会に準じて行うものとする。ただし、COVID-19 感染拡大などの影響が生じた場合は、国内予選のほか本選もオンラインで行った 2020 年及び 2021 年大会の開催方法を状況に応じて参照するものとする。
- (2) 当該コンテストの国内予選で優秀な成績を収めたチームを東南アジア地区大会へ派遣する。ただし、COVID-19 感染拡大状況により、適宜対応する。
- (3) COVID-19 の影響により世界大会の開催が各年度について先送りとなり、ICPC2020 横浜大会の決勝となる世界大会は 2022 年 11 月にダッカ(バングラデシュ)で開催予定となった。ICPC2020 横浜大会において優秀な成績を収め、決勝進出の権利を得たチームの選手・コーチを当該世界大会へ派遣する。また、同大会で開催される指導者会議に学生の育成及び大会運営に携わる教員を派遣する。ただし、COVID-19 の影響を受け、開催時期及び方法については変更の可能性があるため、適宜対応するものとする。

以上